

3月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和7年3月26日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 14時50分まで		
出席者	教育長	高森 賢一	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、遠田真央	
	参 与	丸山真二、工藤靖治、竹光俊司、岩佐正文、佐藤健一郎、早瀬誠一郎、 吉田尚良、田崎俊久、山本栄作、太田康晶、岡田健一、田中政秀	

◎ 開 会

高森教育長が開会を宣した。（13時30分）

◎ 会議録の承認

2月19日（水）に開催された2月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎ 事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

- ・ トヨタ自動車野球部交流会
- ・ 一ヶ岡小へオリーブの木の苗贈呈式
- ・ 天下一！のべおか中学駅伝競走大会
- ・ オリパラレガシー事業（新鍋理沙さんバレー教室）
- ・ テニス協会要望書受領
- ・ LPガス協会要望書受領
- ・ 未来へつながる延岡市環境づくり第1回全体検討会議
- ・ 3月議会一般質問
- ・ 臨時校長会
- ・ 一般教職員異動内示
- ・ 文科省研修生来訪挨拶
- ・ 学校管理職等内示
- ・ 熊野江小・南浦中知事表彰報告

◆教育委員より以下の報告が行われた。

- ◎) 南方中学校・南方小学校の卒業式に参加した。小規模校と大規模校とい

う特徴のある学校だったが、それぞれすばらしい卒業式だった。特に南方中学校では14名の子どもたちが卒業だったが、校長先生の式辞や地域運営協議会の方々の話を聞いてみると、やはり地域とともにある学校っていう思いがたいへん強くて、地域の中でしっかりと育てられた子どもたちが中学校3年間、しっかりと勉強に励んで卒業を迎えられたんだなあという素晴らしい式になったのではないかなと思っている。特に延岡市が進めている「ふるさと延岡への愛着と誇り」という部分についても、子どもたちの感想の中にもそういった文言が大変多くて、これから県外に行く子どももいるようであったが、延岡を誇りに思って、また頑張ってもらいたいなという思いを持ったところであった。南方小学校については、131名という多くの子どもたちの卒業だった。うち1名は、午後に校長先生から別途卒業証書を渡すということではあったが、131名の子どもたち全員が、卒業式のときに学校に来て卒業証書をもって帰る。これは今不登校等が大変問題になっている中で、こういった大規模校の中で、全員の子どもたちがしっかりと卒業式を迎えて、卒業証書を手にするっていうのはたいへん素晴らしいなと思っている。学校の努力を感じたところである。

- ◎) 3月14・15日は、国スポの宮崎県のプールで、14日には日本水泳連盟が参加するというので、会長が来られて、8年ぶりに会えてすごく懐かしく感じた。15日の午前中は、プールのセレモニーに出席して、こんな素晴らしいところで泳げる子どもたちは幸せだなと思った。そこで知事が「松田君は学校のプールで、水で泳いでいたんですね。」とみんなの前で言われたが、本当にそこで水で泳いでオリンピックに出たので、こんな素晴らしいものができたのだから、もっといい選手も育てないといけないんじゃないかと思った。午後はオリンピック選手が2人と私の3人で、宮崎県の60人ぐらいの子どもたちに水泳教室を開いた。次の日、岡富中の卒業式に行ったが、子どもたちが本当に素晴らしい卒業式を見せていただいて、今でもこういう子どもたちがいるっていうことは、今から成長していく子どもたちに期待したいなと思った。そして昨日、北浦小学校の卒業式に行った。22名という少ない人数だったが、保護者やおじいちゃんおばあちゃんたちもたくさん出席されて、すごいところなんだなと感じたのと、子どもたちが22名、1分半ぐらいのスピーチがあった。卒業証書をもって出るときに前に立って、そこでみんなお母さんとお父さんたちの前でスピーチする。それがすごく素晴らしくて、こんな素晴らしい子どもたちなんだなと思って、いろんなことをやっている子どもたちもたくさんいる中で、すごくいい気持ちで帰ってこられたのが幸せだったなあと本当に思った。感謝の気持ちも持っているし、自分の今からのこと、そして今までやってきたことを素晴らしく答えていた。それがすごくよかったなと

思った。今教育委員として7年目だが、新型コロナウイルスもあり、そういうのをほとんど見ていなかったが、そういう子どもたちがまだまだいる延岡は今からやれるんじゃないかなというふうに感じて帰ってきたところである。

- ◎) 2月21日に、学校教育課の講師派遣事業の推進会議があった。市内にはいろいろ数ある企業があるが、その中から22社が選ばれて、8社参加した。自分は商売を始めてもう半世紀、50年になる。いろんなことがあって今の会社になっている。中学生の皆さんが主体的には来るが、そういう人たちに会社を見学してもらい、また自分の話ができるっていうのは本当に誇らしいことで、商売をやってきてよかったなど、そういう講師派遣事業だった。だから、今からも、中学生の皆さんにはちょっと実践教育というか、ものづくりはこうやってやるんですよっていうのは会社の中を見学すれば分かるが、自分が話をする内容は、仕事とはっていう道徳的な話を具体的にしていくのもいいんじゃないかなと思っている。まだ興味本位で、社会の仕組みっていうのがまだ分からない歳なので、そういうところにちょっと力を入れて話していこうかなと思った。3月13日には遠田委員親子が、わざわざまた会社に来てくれて、息子さんの友達が3人来て、みんなであわああと会社の中を見たが、元気な子どもで、和気あいあいとした親子関係も、すごくいい間柄を見させていただいたなどと思っている。3月16日には、延岡中の卒業式があり、体育館がとても寒かったが、96名が卒業した。自分の中学校時代と比べて、みんな大人びて見えて、背が高く体格がよかった。久しぶりに中学生を見て感動した。昨日は、上南方小学校の卒業式に行った。19名が卒業したが、校長が今期で退職される。卒業祝いの言葉では熱弁を振るわれて、やっぱり集大成の言葉だった。なかなか感動する贈る言葉で、この後に告辞を読む自分が、涙が出てとてもきつかった。校長先生が最後に手のひらを太陽にという歌を歌った。あれを思い出しながら告辞を読まないといけなくて、ちょっと涙で詰まって、大変困った卒業式だったが、感動した。そういうことで、教育委員になっているいろんな学校に行かせていただき、感動が多い。よかったと思う。
- ◎) 恒富中学校と熊野江小学校の卒業式に行った。熊野江小では卒業生が1名、在校生が1名という、多分全国でもすごく稀な形だと思うが、地域の方も参加されていて、子どもと先生と地域とすごく近い関係で、雰囲気もすごくいいなどと思って、結構やっぱり感動した。また、甲斐委員の会社に、うちの子どもとその友達で見学に行かせてもらったが、最初、どれぐらい楽しむかなと思っていたら、いろんなことに興味を持って、すごく楽しかったようで、子どもながらに、延岡を誇りに思うと言っていた。それぞれの子どもたちが、親にもすごく楽しかったって言うようになっていたらしく、私のほ

うにもお礼の言葉がたくさんあった。この前の定例会議で電子図書館の話が出たが、私は帰ってすぐに登録してみた。延岡市のホームページからいくと、のべおかポータルの方に行く道筋がなかったので、全然分からなくて、私はここで聞いていたからのべおかポータルをちょっと開いてみよう。そして開いたらできた。うちの店のお客さん等に試してもらったら、やっぱりみんなたどり着けなかったの、ホームページに出すときに、いろんな方に試してもらいながらやると、もっとスムーズにいけるのではないかな。その方はネットについて結構詳しい方だったが、それでもたどり着けなかったの。検索すると、のべおかポータルとか電子図書館って検索すると、私のブログが結構上のほうに出てくる。私のブログにいくと、のべおかポータルからも登録できますって書いてるので、そこでやっとできたくらいなので。最初からスムーズに、延岡市のホームページとかからスッといけるようにすると、もうちょっと登録者が増えるんじゃないかなと。登録したその方は、その内容を見たらすごい良いって言っていたし、いいものだと思うので、うまく広げられたらいいんじゃないかなと思った。

◆各課からの事務報告

- 学校教育課長から、3月16日の中学校卒業式、その日の午後の学びの多様化学校の卒業式や2月期の生徒指導に関する状況等について報告があった。

◆3月議会一般質問報告

- 教育政策課長より、3月議会における一般質問について、7名の議員から、学校給食や学校教育・施設などに関する計19問の主質問があった旨の報告があった。

◎ 議 事

◆議案第26号 延岡市教育功労者表彰規則の一部を改正する規則の制定

(教育政策課)

- 教育政策課長より、刑法の改正により懲役及び禁錮が拘禁刑に統一されたことにより、本規則において使用している禁錮の文言を拘禁刑に変更するための規則改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第27号 令和7・8年度延岡市スポーツ推進委員の委嘱

(アスリートタウン推進課)

- アスリートタウン推進課長より、スポーツ基本法により、2年の任期で委嘱されるスポーツ推進委員の令和7、8年度の委嘱について説明が行われ、異議なく

承認された。

◆議案第 28 号 延岡市少年団体指導員の委嘱（社会教育課）

- 社会教育課長より、令和 6 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの 2 年間の任期で委嘱している少年団体指導員 19 名に加えて、新たに 1 名を令和 7 年 4 月 1 日付で委嘱することについて説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第 29 号 延岡市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定

（学校教育課）

- 学校教育課より、学校における集金の取扱いについて定めていた「延岡市立学校集金会計事務取扱要領」が、準公金の厳正な管理及び取扱いを徹底するため「延岡市立学校準公金等取扱要領」に変更となったことに伴う規則改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第 30 号 延岡市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の一部を改正する規則の制定（学校教育課）

- 学校教育課長より、学校運営協議会委員を非常勤特別職として位置付ける等の規則改正について説明が行われ、異議なく承認された。

◎ 協議事項

◆部活動の地域連携・地域移行について（学校教育課）

- 学校教育課より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。
 - 部活動改革について、地域によって様々な取組みがあるが、令和 5 年度、スポーツ庁では、大まかに地域連携と地域移行というような棲み分けをしている状態である。地域連携というのは、部活動指導員を取り入れたり、他校と「合同部活動」という形で取り組ませたり、1 つの学校に他校にいる部活動生を集める形で行う「拠点校部活動」だったり、そのような様々な取り組みで、地域の力を借りて学校の中で取り組む「地域連携」というものと、地域の学校の外にある素材を使って、部活動の代わりとして取り組んでいくという「地域移行」というものに分けられる。この「地域移行」という言葉をずっと使っていたが、「地域展開」という言葉に変える話が、令和 6 年の 12 月にスポーツ庁からあった。今後「地域展開」という言葉に変わっていく。学校から部活動を地域に移すという考えではなく、地域全体で子どもの活動の機会を確保し、展開していこうという言葉に変わっている。少しシフトチェンジしているような、そんな印象を担当としては受けている。今年度はまず地域連携に取り組んでいくことを昨年度から引き継ぎ、進めてきたところである。
 - 本年度は 6 月に第 1 回延岡市部活動在り方検討会を行い、先ほど言った地域

連携に取り組むというアナウンスをした。また、長期プランを作るというミッションも伝え、今年度は2つのミッションを立ち上げたところである。7月、8月と、学校に聞き取りをしながら、9月の第1回専門部会で、方針を伝えた。10月から1月にかけてモデル事業を行い、2月、3月に取り組みの結果と来年度の方向性を検討した。1月には先進地視察も実施している。なお、在り方検討会については、大学教授やスポーツ協会の代表、各種団体、PTA、中体連会長など、様々にご協力いただいている。第1回専門部会については、本年度は地域連携がテーマだったので、学校長はじめ諸先生方に集まっていただき、保護者の代表、各課の代表なども集まっていた。

○本市の今年度の地域連携の取り組みについて詳しくお伝えしたい。合同部活動や拠点校部活動は、今まで行われていた合同チームと何が違うのかということ、いろんなどころから声が上がった。まずそこを整理しなければ進まないだろうと考え、第1回の専門部会の前に、延岡市としての考えを整理した。合同チームは、部員数が少なく、中体連に出られないチームを救済するための中体連が行っているチーム作りである。これは、最大3チームまでという縛りがある取組みになっている。これに対し、子どもたちの活動の機会を確保するため、合同部活動、拠点校部活動を立ち上げた。これは、延岡市が認める形になっていて、中体連だけではなく、他の大会についても延岡市が認めるこのチームの参加への理解を得る形をとる。指導者については、中体連の合同チームについては、3チーム合同に対して3チームそれぞれの顧問が指導するとなっている。それに対し、延岡市が認める合同部活動は、指導等は協力して行うと要項に記載されている。協力という言葉の中に、働き方改革も含めている。例えば大会や合同練習で、A校の先生が、A校、B校の子どもたちと一緒に指導することもできる。拠点校部活動は、拠点校の顧問の先生が指導する。この考えをもとに、子どもたちの活動の機会確保だけでなく、専門性を高め、教職員の働き方改革も含めて進めている。合同チームは3チームまでとなっているが、それに対し、地域連携は何チームでもよいという考えを持っている。ただ、例えば4チームの合同チームとなったときに、中体連がそのチームの中体連への参加を認めるかどうかは、現在のところは協議の必要があるという回答を得ている。その理解を今後、中体連にも求めていく予定である。

○合同部活動の実施は、6月の在り方検討会の後、各学校からアンケートをとっている。そのアンケートの声や在り方検討会の意見をもとに、専門部会で候補となる学校を選定し、そして10月に打診をしながら、何とか11月から合同部活動を実施している。女子ソフトボールと男子ハンドボール、男子バスケットボールの3競技、5つの学校がモデル校として活動した。ちなみに開始時期がずれているのは、保護者や生徒に理解を時間がかかり、申請を出すタイミングが学校によって異なった。しっかり保護者に理解を得て、申請してくれたの

で、そのあとの活動についてはスムーズにいった。

○合同部活動を実施して、それぞれ効果を感じているようである。例えば、先生方からは、働き方改革として非常にありがたいという声が上がっている。ただ、今回のモデル実施が、今年度3月31日をもって終了としているため、次年度のことに不安を感じている顧問もいた。夏の中体連、6月、7月、8月まではどうなるのか、夏の中体連までのエントリーに心配があるという意見であった。第2回の専門部会で、部員が1人だけのバトミントン部の練習相手の確保のため、合同部活動という制度は使えるのかという意見もあった。個人競技の練習相手の確保のため制度ではないという確認をした。令和7年度は本格実施の方向で、今もうすでに進めているところである。

○拠点校部活動は、声が上がらなくて、モデル試行ができなかった。理由は、拠点校の顧問の負担感があった。できなかったことも、今年度の成果として来年度につなげていきたい。

○次に先進地視察について報告する。先進地視察に行くにあたり、延岡市の課題を改めて考えた。様々あるが、地域連携の実施が、課題解決が少し進められた思いである。それと同時に、地域との連携体制、すなわち地域展開の部分がまだまだ進められていない状態であることが改めて分かった。先進地視察は、地域展開が進んでいる地域を選ぶこととした。

○選んだのは、愛知県半田市、岐阜県海津市である。半田市は、平成13年から20年ぐらいかけて地域展開が進められている。半田市の広さは延岡市の20分の1ぐらいの非常に小さい市である。ただ、面積は小さいが、延岡市と比べると変わらない生徒数になっている。5つの中学校区があり、人口密度が高いと考えたとき、南中から延中までの延岡市の中心部のモデルとして視察した。半田市は、部活動は平日のみで、今年度から大きく舵をとり始めた。20年ぐらいの歴史があり、土日の受け入れ体制が48団体と非常に多くある。多くあるのは、市からの助成が効果を発揮していた。またスポーツ課、教育課、スポーツ協会などが一体となって組織が作られていた。ちなみに、部活動は平日のみで、土日は子どもたちの自主性に任せていた。クラブ活動に行きたいという子、休みたいという子もいた。

○海津市は、面積は半田市よりも大きい、生徒数が762人と少ない市であった。こちらは、例えば、北方、南方、西階、または北浦、北川、東海という距離のある学校同士のモデルとして視察した。海津市中学校地域クラブを、令和4年度に立ち上げ、2年間取り組んでいる。スマイルクラブこん平田と、南濃スポーツクラブ、そして育成会という保護者会が歯車になり、それぞれの地域で地域展開が行われていた。土日だけ、子どもたちの受け入れをしていた。

○視察を終えて感じたことは、地域展開は、地域の受け皿があることが必須であることと、運営組織体があること、どちらも必要だろうと感じた。また、平

日に地域展開を広げるといのは、まだまだ難しさが感じられた。

○令和7年度について、次のように実施する。長期プランは、今年度初め、簡単なものを作り、協議を重ね、仕上げた。今配付したプランを来年度具体的に公表していきたい。展開イメージについて、従来型の部活動を、部活動指導員という地域の力を借り、徐々に部活動指導員を増やす。拠点校部活動や合同部活動も増やしたい。地域展開についても徐々に進めていきたい。このような計画のもとに、部活動改革を進めていこうと考えている。

○部活動指導員は、今年度12名が配置された。これを今年度16名の予算が取れているので、配置人数16名を目指していきたい。任用期間について、国の補助金により、これまで2月末までとしていた。3月は任用が外れている期間になっており、1ヶ月間部活動指導員がいない空白の期間がこれまで生まれていた。これを令和7年度からは4月から3月まで、切れ目のない指導を目指す。現在すでに15名と資料に書いたが、実は昨日、もう1校部活動指導員配置の希望があり、現在すでに16名任用の見込みになっている。これをもって、令和7年度運用し、令和8年度には、人数をさらに確保していきたい。

○合同部活動は、先ほど話した通り本格実施を目指している。すでに3月中旬から学校に案内を出し、現在、申請受付中である。まだ1校も申請はない状態である。やはり保護者の理解などを丁寧に取らないといけないので、すぐに申請が上がってこないようである。顧問の切り換え等諸事情もあると思われる。申請は随時としている。終了予定は、年度末だけを終了予定にすると、上級生のチーム引退の時期と違うことになる。終了予定は、その夏のシーズンまでにするのか、顧問の切替わりの3月までにするのか、来年度の、今の2年生が3年生になったときの引退までを終了予定とするのか、その終了予定を申請するようになっている。

○拠点校部活動は、来年度もモデル試行を継続して実施していきたい。令和7年度は1つでも増やしていきたいと思っている。

○地域展開のための土台づくりとして、在り方検討会や専門部会の組織を見直したいと考えている。特に専門部会を、地域展開のための共同体にしていこうと考えている。第2回在り方検討会でも、それぞれの課から代表を出していただきたいとお願いをしたところである。

○なお、第2回延岡市部活動在り方検討会の中で、委員から良い意見をいただいた。スポーツ団体の方から、負担とか色んなお金の面が多いことは課題だろうとは考えているが、理想論だが個人的にはこれまでと同様に地域の意識がボランティア精神でもっと盛り上がって欲しいと思っている。それこそがアスリートタウン延岡のモデルになるだろうという気持ちだという意見があった。また、先進地や報道を聞くと、部活動は平日のみだったり、地域連携・地域展開はしないであったり、そういう方針を立てている市町村があるが、延岡市は

色々やろうとしている。1つに絞るっていうことも大事なんじゃないかという意見もあったが、最終的には、フレキシブルに取り組むことが大事であり、今後、子どもたちの活動機会は、子どもたちや、それに関わる人たちが選択できることが大事であり、延岡市が色々取り組んでいることは、これから大事になっていくのではないかという意見があった。このような意見もあり、現在の取組の理解を得られていると感じた。来年度はこのプランで進めていき、さらに子どもたちのスポーツ・文化系の活動、芸術活動の機会確保を広げていきたいと考えている。

◎) 子どもたちからの質問とか、分からないことなどの意見が出ていないのか。

⇒) 周知も含め、そこの部分が今年度できなかった。昨年度は、子どもたち、保護者、教職員からアンケートをとっているが、今年度はできていない。来年度はアンケートをとりたいと思っている。また、取組の周知も併せてやらないといけないなと思っており、それもまた令和7年度のミッションと担当としては考えている。

◎) 子どもたちの意見もだが、昨日卒業式に行ったときに、子どもたちのスピーチの中で、みんな中学生になったら部活動に入りたい、こういうスポーツをしたいと、ほとんどの子どもたちが言っていて、部活動はこんなに考えているんだなっていうふう感じた。だからその子どもたちの夢とか希望を摘み取らないように、やっぱり中学校に行ったら部活動ができるっていう子どもたちの方が多いと思う。だからそういう子どもたちの考えを摘み取るつもりはないと思うが、そうならないようにして欲しいなと思う。でない、しっかり運動をやりたいっていう子どもたちも、勉強したいという子どもたちもたくさんいると思うが、運動離れに子どもたちがならなければいい。親とか周りはいろんなこういうすばらしいプランを立てているが、そこに入っていけるものなのか、すんなりいけるものなのか、もう面倒くさいっていうふうになるものなのか、出だしはみんなそういうものだと思うが、それをすんなり受け入れられて、スポーツにしっかり親しんで欲しいなと思う。

⇒) 中学生に対してのスポーツ文化活動なので、小学生の子どもたちも、中学校に入学したらどうすればいいだろうか、悩みや困り感もあるだろうと思う。子どもたちへ周知や意見を収集したり、なるべく早く進めてあげたいなという気持ちは持っている。ただ先ほどの地域展開のことで言うと、受け皿が無いなか、学校が早く地域展開を、働き方改革をと急ぐと、受け皿側としては、私たちも働いてい

るという反発の声も生まれる。早く進めていきたいという気持ちと、じっくりしっかり進めないと理解を得られなくて破裂してしまうという部分も同時に感じている。先ほど、学校の働き方改革の話もしたが、子どもたちを中心にして考えないといけないというところは、しっかり軸にして今後進めていきたいと思っている。

- ◎) 現状の制度でも校区外通学、部活動を理由として、別の一番近い部活がある学校ということで、書いている生徒もかなりいる。
- ◎) 今の校区外通学のことで、ちょっと疑問に思っていたことがあるが、この拠点校部活動ということになると、例えば、Aの学校が拠点校として手を挙げた。その近隣のB校C校の子どもたちがその拠点校に行って、拠点校の先生の指導を受けて、部活動を進めていくという考え方になると思う。そのときに、例えばそのB校とC校の親御さんが、それであれば、もう近隣でもあるし、校区外申請をして、A校に移るんだってというような申し出があったときには、それは部活動とはちょっと違う、関連はするが、どうなのかなど、ちょっと疑問に思った。
- ⇒) 委員が言われたことは可能性としてもあるし、他市町村においてはそのような事例が以前から見られて、それが問題になっているところも一部あると思う。私も他の市町村にいるときに、その部活動をやりたいがために校区外の申請を出して、そこに強いチームを作るためにという理由での転出転入があったという話は聞いているが、今回のこの部活動の拠点校ないし合同部活動というのは、先ほど説明の中でもあったが、子どもたちのやりたい部活動は、できるだけ可能性を広げてやるということが主眼であるので、原籍校に身を置きながら、部活動は隣の学校でできるってところなので、今までのように移動するということは、まず私たちとしては考えていない。ただ、そういう可能性が出てくることも視野に想定に置いておかないといけないと思うが、実際、拠点校部活動について、今年度やろうと思ってできなかったことの原因の1つとしては、保護者の送迎がある。いくら近隣校といっても、例えば岡富中と延中ぐらいであれば自転車で移動できるが、そこに作ろうかと思ったのだが、いややっぱりそこでもなかなか保護者の理解が得られなかったりとかいう部分があるので、今宮田委員の言われているところの視点は、今後出てくるのではなからうかと考えているところである。
- ◎) 合同部活動のとき、平日は学校でやって、土日は合同になるが、合同のときのトラブルなどの責任みたいなものはどこになるのか。

例えば、練習中の事故とかあった場合、そういうのをもし自分が受けるようになったら、その責任っていうのはどうなるのかなって思ったので。

⇒) 例えば、移動中の事故等については、スポーツ振興センターの保険の方で対応ができると確認している。登下校ではないが、そちらに向かう途中ということで対象となる。また生徒同士のトラブル等に関しては、それぞれの学校長の認めで集まっているので、申請の段階で、校則、方針等を守って活動するとして申請しており、何かあった場合は、その時の指導者に指導してもらうとなっている。

◎) 基本的にはその在籍している学校の中での対応になるのか。

⇒) 最終的に報告は行くので、それぞれの所属校の先生からも指導はある。

◎) 部活動指導員だが、この制度を周知するために、例えば、中学生で部活をしている子ども等にも、将来そういう立場になれる可能性があるっていうのを、中学生ぐらいから伝えておいてあげれば、別にプロを目指さなくても、やるのも好きだけど教えるのも好きだっていう子どもがいると思って。本当は高校生ぐらいに、それは伝えられていくと、この先もずっとその指導員ってのは多分不足してくるような気がするんで、そういうふうにやっているだけでもちょっと違うんじゃないかなと思う。

⇒) この合同部活動とか、そのやり方の前に、この部活動の改革というのは、私たちは、延岡市のスポーツ若しくは文化活動がどうなるのかというところの大きな視点でも考えたことがある。というのは今、遠田委員が言われたように、部活動指導員というのを今何名、今何名ということで確保していくのもそうだが、少し中長期的な展開を図るような考え方を持っておかないといけないし、来年度の方針の中でも1つ出されたが、そのスポーツ競技団体との連携というところが、そのスポーツ競技団体の存続にも関わってくるので、そういうところとの連携を図っていくために、在り方検討会、また専門部会の中にもそういう団体の方も入っていただいて、総合的に中長期的に考えていきたいと考えているところである。

◎) 今月、延岡市2つ目の総合型地域スポーツクラブの設立総会が予定されており、将来的にはそういう総合型地域スポーツクラブも受け皿の一つになっていくのかなあと、そういうありがたい部分も少しずつ広がっているところである。

◎ その他

◆旭化成株式会社からの出向社員の受け入れについて（アスリートタウン推進課）

- アスリートタウン推進課長から、旭化成株式会社からの出向社員受け入れについて説明があった。

◆延岡市フリースクール等民間施設の連携に関するガイドラインについて（学校教育課）

- 学校教育課長から、教育委員会が認定要件を満たすと判断したフリースクール等の支援を受けている児童生徒について、校長の判断において指導要録上の出席扱いとすることができること等を定めたガイドラインについて説明があった。

◆4月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

- 4月定例教育委員会については、4月23日（水）の14時から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（14時50分）